

主催 日本イコモス国内委員会
共催 熊本市



歴史を活かしたまちづくり ～熊本地震からの復興～

熊本地震発生から1年以上が経過し、未だ文化財や都市景観を構成する歴史的建造物の復旧は道半ばとなっています。また、熊本市の旧城下町においては歴史的建造物の解体が進んでいます。熊本市は「歴史的風致維持向上計画」の策定に向けた検討に取り組まれておりますが、この計画が実施されることで歴史的景観が保全され、城下町としての風情を将来に継承していくことが期待されます。また、歴史的建造物の保全と活用は都市の品格の向上やまちの活性化にも繋がっていくものです。そこで日本イコモス国内委員会は、そのきっかけとなるシンポジウムを熊本市と共催で開催することになりました。是非、市民、行政、専門家の方々の参加を広く呼びかけるものです。



日時 平成29年9月24日(日)
14時00分～17時00分
(開場 13時30分)

場所 熊本市役所 14階大ホール
(熊本市中央区手取本町1番1号)

14:00～14:05 開会
14:05～14:35 講演1 西村幸夫
14:35～15:05 講演2 後藤治
15:05～15:35 講演3 舟引敏明
15:35～15:45 休憩(10分)
15:45～16:00 講演4 大西一史
16:00～17:00 パネルディスカッション

パネリスト

西村幸夫(東京大学教授
/日本イコモス国内委員会委員長)
—歴史的都市のまちづくり—

後藤治(工学院大学教授/同大理事長
/熊本地震復旧支援委員会委員長)
—熊本地震による歴史的建造物の被害と専門家の活動—

舟引敏明(宮城大学教授)
—歴史的風致維持向上計画と災害からの復興—

大西一史(熊本市長)
—熊本地震からの城下町の再建—

司会

矢野和之(日本イコモス国内委員会事務局長)

定員 300人
申込不要・参加費無料

後援

文化庁
国土交通省(申請中)
熊本県教育委員会
公益社団法人日本建築士会連合会
公益社団法人熊本建築士会
公益社団法人日本建築家協会
九州支部熊本地域会
一般社団法人日本建築学会
九州支部歴史意匠委員会
ワールド・モニュメント財団(米)
NPO法人熊本まちなみトラスト
NHK熊本放送局
熊本日日新聞社

Supported by THE NIPPON FOUNDATION



PROFILE



西村幸夫 (にしむら・ゆきお)

東京大学教授／日本イコモス国内委員会委員長

1952年、福岡市生まれ。東京大学都市工学科卒、同大学院修了。明治大学助手、東京大学助教授を経て、1996年より東京大学大学院教授。専門は都市計画。工学博士。日本イコモス国内委員会委員長。主な著書に『世界文化遺産の思想』（共編、東大出版会、平成29年）『都市経営時代のアーバンデザイン』（編著、学芸出版社、平成29年）、『図説 都市空間の構想力』（学芸出版社、平成27年）などがある。



後藤治 (ごとう・おさむ)

工学院大学教授／同大理事長／熊本地震復旧支援委員会委員長

1960年生まれ。東京大学工学部建築学科卒後、東大院を経て1988年文化庁文化財保護部建造物課文部技官、同文化財調査官。1999年に工学院大学工学部建築都市デザイン学科助教授、2005年同教授。2017年から現職。専門は歴史的建築物及び町並みの保存修復、歴史的建築物の保存に関わる制度、伝統的な木造建築の構法・技術。一級建築士。博士（工学）。



舟引敏明 (ふなびき・としあき)

宮城大学教授

1957年北九州市生まれ。1979年東京大学農学部農業生物学科卒業。同年建設省に入る。2011年に国土交通省都市局公園緑地、景観課長、2014年に大学官房審議官（都市生活環境担当）。主に都市計画、公園緑地分野を担当し、景観緑三法、歴史まちづくり法の立法に携わる。2016年より現職。他に日本都市計画学会理事、宮城県都市計画審議会会長、宮城県景観審議会副会長を務める。博士（工学）。



大西一史 (おおにし・かずふみ)

熊本市長

1967年熊本市生まれ。県立熊本北高校卒業。日本大学文理学部心理学科卒業。2010年九州大学大学院法学府公法・社会学専攻修士課程修了。九州大学大学院法学府法政理論専攻博士後期課程単位修得退学。1992年日商岩井メカトロニクス（株）。1994年内閣官房副長官秘書。1997年熊本県議会議員初当選後、連続5期当選。2014年第3代熊本市長に就任。



矢野和之 (やの・かずゆき)

(株)文化財保存計画協会代表取締役／日本イコモス国内委員会事務局長

1946年熊本県西原村生まれ。1969年武蔵工業大学（現東京都市大学）工学部建築学科卒業。同大学修士課程、博士課程を経て、(株)文化財保存計画協会を設立。文化遺産の保存活用の調査・計画・設計監理や歴史的建造物の復元設計にあたる。「歴史廻廊都市くまもと」の策定（1989年）、熊本城宇土櫓保存修理工事（1990年）に携わった。著書に「空間流離」、「歴史のまちのみちづくり」「甦る古墳文化」など。

イコモスとは？—What is ICOMOS?

イコモスとは、国際記念物遺跡会議（ICOMOS/ International Council on Monuments and Sites）のことで、文化遺産保護に関わる国際的な非政府組織（NGO）です。1964年にユネスコの支援を受けヴェニスで開かれた Second International Congress of Architects and Technicians of Historic Monuments（第2回歴史記念建造物関係建築家技術者国際会議）で「記念物と遺跡の保存と修復に関する国際憲章（通称ヴェニス憲章）」が採択されました。これを受け1965年にICOMOSが設立されました。

人類の遺跡や歴史的建造物など文化遺産の重要性を認識し、それらを保存し、継承していこうという行為は、19世紀以来世界の多くの国で続けられてきました。しかし、そのような遺産の保存のための国際組織が構想されるようになったのは第2次世界大戦後のことで、約20年の準備期間を経て1965年6月、クラクフ（ポーランド）でイコモスの第1回総会が開かれました。それから半世紀、2017年現在は153カ国もの国に会員ネットワークが広がり、国内委員会が各国で組織され、文化遺産保存分野の第一線の専門家や専門団体が様々な活動を行っています。

また、1972年ユネスコ総会での世界遺産条約採択後は、ユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、世界文化遺産の保護・保存、そして価値の高揚のための重要な役割も果たしており、文化遺産保護の原理、方法論、科学技術の応用の研究等を行っています。またICOMOSはユネスコの諮問機関として、世界遺産登録の審査、モニタリング活動も行っています。

後援

文化庁、国土交通省、熊本県教育委員会、公益社団法人日本建築士会連合会、公益社団法人熊本県建築士会、公益社団法人日本建築家協会九州支部熊本地域会、一般社団法人日本建築学会九州支部歴史意匠委員会、ワールド・モニュメント財団（米）、NPO法人熊本まちなみトラスト、NHK熊本放送局、熊本日日新聞社（国土交通省は申請中）

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

問い合わせ先

日本イコモス国内委員会事務局

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル
13F 文化財保存計画協会 気付

FAX: 03-3261-5303

E-mail: jpicomos@japan-icomos.org